

向東小学校だより

尾道市立向東小学校
平成29年10月2日（月）
発行責任者 石原政信



No. 6

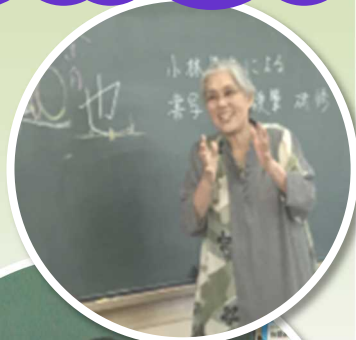
地域の力で学び、育つ

9月末になり、朝晩はめっきり涼しくなりました。現在、向東小学校では、様々な教育活動の場面で、地域の方々にボランティアで関わっていただいています。

例えば、クラブ活動。上の写真は、フラワーアレンジメントの指導を受けている子供達です。また、下の写真は、月曜日6校時の裁量時間（ぐんぐんタイム）の時間、算数や国語のドリル学習において、地域の方々に採点をしていただいている場面です。また、芸術祭に向けて、絵画や習字の指導なども受けています。

今年からリニューアルした「地域教育支援推進委員会」のコーディネーターである向東公民館長に要望を伝え、地域の「人財」に来ていただいています。

平成32年度から教育の内容が新しくなります。その基準となる「学習指導要領」には、「社会に開かれた教育課程」というキーワードが盛り込まれています。持続可能な地域社会を作るためには、学校を中核としたコミュニティを作ることが大切です。本校におけるこの取組もそのキーワードを具体化した一つです。ボランティアの皆さん、いつもありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いいたします。



平成30年度から

「特別の教科 道徳」が始まります

10月2日（月）の参観日は、道徳参観日としました。各学年では、学級ごとの課題に応じて、題材を決定し、授業を設定しました。保護者の皆様、参観された授業での子供達の学びの様子はいかがだったでしょうか。

学校は、10年間に一度、教育内容の見直しが行われます。小学校では、平成32年度から新しい「学習指導要領」に基づいて教育が行われることとなっています。その中で、道徳を始め、いくつかの教科等においては、平成30年度から先行実施されます。

今回の道徳の改訂においては、いじめの問題等、子供達が現実の困難な問題に対しても主体的に対処することができる実効性のある力を育成するために道徳教育の役割の重要性が議論されました。そのため、「特別の教科 道徳」においては、単に教材文を読んで感想を言い合うような授業ではなく、答えが1つとは限らない問題に対して、自分なりの考えをもち、異なる考えをもつ友達と交流し、結論を導き出そうとする「議論する道徳」の授業づくりをめざしています。「道徳教育」は毎週1回の道徳の授業だけが指導の場ではありません。学校生活の全ての場面で「道徳」的な判断が必要な場面はたくさんあります。例えば、学校に来る途中の道にごみが落ちていた。そのごみを見て、何も感じないか、どうしようと迷うか、ごみを拾うか、それは、まさに道徳的な場面です。家庭においても同じです。その場面をどう感じ、どう考え、どう振舞うか、子供達に常に問いかけ、学校と家庭、そして、地域で道徳的な実践力を身に付けさせたいと考えています。向東小学校においても、来年度からの本格実施に向けて、準備を進めています。